

素粒子の世界身近に

松江市民向け「科学カフェ」

最先端の科学に触れてもらう「サイエンス・カフェin松江」が十五日、松江市殿町のカラコロ工房であった。第一線の研究者ら三人が、日本人のノーベル物理学賞受賞など旬の話題を分かりやすく解説し、高校生や市民が耳を傾けた。

同賞受賞について講義したのは、トップバッターの伊藤英男東京大宇宙線研究所特任助教。今年受賞した三人の物理学者のうち、南部陽一郎米シカゴ大名誉教授が提唱した「自発的対称性の破れ」という現象について、図などを使って丁寧に解説。「素粒子の世界を精密に記述する、標準模型の根幹を担うメカニズム」と強調した。ほかに地球科学などの講義もあり、車座でお茶と菓子を手にくつろいだ雰囲気の中、参加者は熱心に質問していた。

サイエンス・カフェは、NPO法人サイエンス・ステーション（東京）が、

地方でも科学に触れる機会をつくらうと全国で開催している。島根では四回目。今回は松江北高での授業に続き、市民を対象に開いた。



伊藤英男東京大宇宙線研究所特任助教（左）の講義に耳を傾ける高校生ら

ほかに地球科学などの